フロート・衣装 3案比較と選定理由

2027年度 第75回ザよこはまパレード｜連進〜ハマ咲くガーデンパーティー〜

採用案 ミツバチと赤いバラ

赤いバラ案は横浜と花博を直感的に伝えやすく、鯉と龍案は挑戦と成長の物語を表現しやすい案です。ミツバチと赤いバラ案は、横浜市の花であるバラで花博とのつながりを示しながら、花から花へ花粉を運ぶミツバチの姿に、新入会員と既存会員が役割を分担し、仲間とつながりながら一つの目標へ進む「連進」を重ねられるため、採用いたします。

沿道からは、接近時に正面のミツバチの顔、通過中に側面のハチの巣と赤いバラ、通過後に背面のしま模様が見える構成といたします。衣装にも黄色と黒の配色とミツバチ・赤いバラの意匠を取り入れ、フロートと行進する隊列に一体感を持たせます。

観点	赤いバラ案	鯉と龍案	ミツバチと赤いバラ案
花博・横浜とのつながり	市の花であるバラが主役。花博とのつながりを直接伝えやすい。	花博との関係は応援表示やアナウンスで補う。	市の花のバラに、花を訪れるミツバチを組み合わせる。
「連進」の表現	一輪のバラが開く演出。仲間と進む意味は説明で補う。	滝を登る鯉が龍になる姿で、挑戦と成長を表現。	花から花へ飛ぶ姿に、仲間とつながり進む姿を重ねる。
沿道からの見え方	側面の花びらから、背面の大きな一輪へと展開する。	側面の鯉・滝・龍と、衣装の背面柄で物語をつなぐ。	正面は顔、側面は花とハチの巣、背面はしま模様。衣装も同じ配色とモチーフ。
制作上の確認点	板の外装と背面の花の造作を中心に検討。	ベニヤの外装に大きな絵を描くため、側面・背面の作画工程を確認。	壺の丸みとハチの立体造作に工数がかかる。平板・布を使い、試作後に工数と費用を確認。

制作方針

制作は、正面のミツバチの顔と側面のバラに立体造作を集中させ、壺とハチの巣の大部分をベニヤの平面と塗装で表現する案とします。羽や背面のおしりには布の活用を検討します。寸法、取付方法、工程及び費用は、試作・実車確認・見積りを経て確定いたします。

出典 横浜市「き章・市の花」 ｜ GREEN×EXPO 2027公式「博覧会概要」

次頁以降 採用案のフロート、衣装、赤いバラ案、鯉と龍案の順に掲載。

ハマれ！ハマ咲くガーデンパーティー

ミツバチと赤いバラ案







選定理由

花から花へと花粉を運ぶミツバチに、仲間とつながり
前へ進む横浜青年会議所の「連進」を重ねる。

演出

正面では壺からミツバチが顔を出す。中央の六角窓から
理事長と専務が手を振り、左右の壺から赤いバラがこぼれる。

メリット

ハチの顔は遠くからでも見つけやすく、赤いバラが
GREEN×EXPO 2027を応援する花のテーマを伝える。

デメリット

壺の丸みとハチの立体には手間がかかる。壺は平らな
ベニヤをつなぎ、羽とおしりには布を使う。

差別化

通り過ぎると、車体の背面からしましまのおしりがのぞく。
迎えるときと見送るときで、違う表情を楽しめる。


27

ハマ咲くガーデンパーティー

赤いバラ案







選定理由	GREEN×EXPO 2027の開催に合わせ、横浜市の花であるバラを主役に。
演出	背面に大きな赤いバラを一輪。側面に花びらを描き、衣装も赤で統一。
メリット	花博とのつながりと横浜らしさを伝えやすい。
デメリット	他団体も花やバラを選び、モチーフが重なる可能性がある。
差別化	通過後、背面に一輪のバラの全体像が現れる。

連進～水を越え、空へ～

鯉と龍案





選定理由	滝を登る鯉が龍になる姿に、仲間と挑戦し前へ進む『連進』を重ねる。
演出	ベニヤの外装に鯉・滝・龍を描き、衣装の背中にも滝を登る鯉を入れる。
メリット	昼の沿道からも青と朱が映え、フロートと衣装に一体感が出る。
デメリット	花博とのつながりは、応援ロゴやアナウンスで補う必要がある。
差別化	歩くメンバーの鯉が、フロートで龍へ変わる物語を見せる。